

## 2024.5.16 遊びの中で得た知識が次の興味・関心の原動力になる

F男、N男、T男の3人がテントウムシを探しに後期課程のテニスコートを探索しています。すると、たくさんカラスのエンドウを発見。カラスのエンドウの実集めが始まります。すると、カラスのエンドウの実集めに夢中だったN男がその横に咲いている花を見て、「この花きれいだねー！」と見つめます。教師が「そのお花きれいだね！なんという名前のお花なんかな？」と聞くと、「わからんわ」とN男。でも大事に花を摘むと、タンポポと一緒に部屋に持ち帰ります。



その日の全体でのみんなの時間、3人は見つけたカラスのエンドウを紹介します。そして、H子からカラスのエンドウで笛ができるという情報を聞くと、どうやったら笛ができるのかをみんなで考えます。そして、ビデオでカラスのエンドウの笛の作り方をみんなで見ます。すると、「カラスのエンドウとりに行きたい！」と子供たち。みんなで後期課程のテニスコートへ行きました。教師も一緒に笛作りをしながら、楽しみます。

次の日の好きな遊び、3人はカラスのエンドウの豆を集めたり、笛を試したりして遊んでいました。



その日のクラスでのみんなの時間、最後に教師から「実は先生、昨日から不思議な花を見つけてさ」とN男が見つけた花を見せます。すると「あ！それ知ってる！」 「外に咲いていたよ！」と子供たち。そして、クラスの子供たちでその花を探しに行きます。「先生、白い花と紫の花があったよ！」との声。

その後、もう一クラスも合流して、「これってなんというお名前の花なんだろ？」と教師は全体に問いかけます。「うーん、先生、調べてみよ！」と子供たち。モニターに検索サイトを映しながら、一緒に探します。「『しろいはな』で、『真ん中むらさき』っていれたら？」すると、同じ花が画像ででてきます。「ニワゼキショウ」という名前であることがわかり、あやめの仲間ということもわかります。「青っぽいのもあるんだね！」「かわいいね！」と子供たち。

昼遊びの時、「築山にも『ニワゼキショウ』あったよ！」とK子。またH子は色水広場にあるピンクの花を見ながら、「これも『ニワゼキショウ』？」と教師に聞いてきます。「なんか似てない？」とH子。「でもさっきのは花が6枚って言ってたけど、これは5枚だな」と枚数の違いにも気付きます。「これはなんて名前なんだろ？」とH子。

今まででは周りにたくさんあっても何も気にならなかった「ニワゼキショウ」の花。N男の『ニワゼキショウ』との出会いから全体で共有していく中で、周囲の子の見方の変化へつながり、また新たな問い合わせへつながっていきます。少しずつコミュニティとしても未知なる世界へとひらいていきます。植物へのストーリーはまだまだ続きそうです。

